

	生徒の現状と課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に前向きに取り組もうとする気持ちをもった生徒とそうでない生徒の差が大きい。 ・漢字学習など基礎学力を身に付ける家庭学習が習慣化されていない生徒が多い。 ・書くことに苦手意識をもった生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を引き出し、主体的に学習に取り組む態度を育てるためにタブレットPCの活用や発表など学び合い活動の充実を図り、バリエーションに富んだ授業内容にする。 ・家庭学習の定着のために、週1回の漢字小テストを継続する。また、授業で課題に取り組む時間も多く確保していく。 ・学び合いの時間に定期的を書くことを取り入れ、内容が理解できていない生徒には、別の課題を用意し、個別対応の時間を確保する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能では、地理的歴史的用語の理解や、地図および年表を活用する力が優れている。 ・思考・判断・表現では、タブレットPC等のICT機器を利用した表現が優れており、グループ活動では意欲的に学習できた。更にその活動で個々の考え方が共有され、深い学びができていていると感じる。 ・基礎的知識が定着していない生徒及び、社会科的事象について判断し表現することが難しい生徒もいる。 ・授業評価アンケートでは、社会科的事象に興味関心をもっていると回答した生徒が約80%以上みられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的知識定着や個別最適な学びの充実のため、事前事後のプリント学習やノート記述及びeライブラリを活用する。 ・社会科的事象に対する興味関心をもたせるため、授業での指示を明確にする為、指示内容を文字で掲示し、短い文章で簡潔に話すことを進める。 ・社会科的事象に対する興味関心をもたせるため、タブレットPCを活用したグループ活動および導入やまとめ発表を進め、多面的多角的な見方・考え方を身に付けさせる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能に関しては、計算処理が優れている生徒もいるが、小学校で学んだ知識・技能を活用できていない生徒もいる。途中式を書くことが苦手で、解答までの導き方を確認する必要がある。 ・1つの問題に対して様々な視点から考えることができる生徒がいる一方で、解法の手立てを自分で考えることができない生徒も一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由や根拠を生徒に考えさせるような発問をしていく。 ・eライブラリなどを活用して、個別最適な学びに取り組む、生徒一人ひとりに必要な知識を定着させ、基礎学力を向上させていく。 ・話し合い活動を充実させ、自分の考えを説明できるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能は高く、単純な知識を記憶する力や実験操作の技能は全体的に優れており、理論的な思考の理解もできる。しかし、目的に沿ったその場の操作の判断力に課題がある。 ・思考の途中経過を説明したり、文章にしたりすることが難しいと感じている生徒がいる。文章表現では箇条書きになる生徒が多く、つながりが見えづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に課題設定をさせ、実験の原理や操作方法を考えさせる授業を多く取り入れ、課題に対する目的を明確にし、必要な操作を判断する力を育む。 ・実験はレポートを作成させることを基本として、課題の背景や目的、原理、方法、考察を適切な文章で表現できるよう指導を行う。文章の書き方や表現の仕方を適宜指導することで、説明する能力や表現力を成長させる。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に前向きな気持ちで取り組める生徒とそうでない生徒の差が大きい。 ・感想を文章にしたり、説明したりすることに困難が見られる。 ・授業評価アンケートでは歌い方を工夫できたという意見が多かった。その一方、記号が難しいなど、話は理解できるが、内容についていけない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で歌い方を理解しやすいような範唱や実践しやすい取組方を多く設定していく。ワークシート等で音楽記号も理解しながら進められるようにする。 ・プロジェクターでの投影やデジタル教科書を使用することで、音楽記号や楽譜への苦手意識を減らしながら取り組めるようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の差が大きく、題材に対して進捗や完成度にばらつきが生じた。 ・活動内容によって、制作を継続することが難しい生徒がいる。 ・板書と動画投影で説明した際、一度の動画では作業を理解できない生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の差が出にくいモダンテクニックを用いた抽象表現を題材にする。 ・自由な発想を通じて思考・判断・表現の力が高まる題材を扱う。学び合いなどを通じて表現の楽しさが感じられるようにする。 ・プロジェクターを使用した動画投影に加え、classroom で配信して生徒が各自でいつでも見られるようにする。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して苦手意識のある生徒が一定数いるが、全体的に授業に対して意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ・話し合い活動や主体的に学ぶ場面では、意欲的に活動することが難しい生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識のある生徒が主体的に授業に取り組めるために、プロジェクターを使える場所での授業の時は、毎回スライドなどを活用する。 ・学び合い学習の充実を図るために生徒同士の話し合いの時間を、様子を見ながら長めにとれるよう工夫していく。
技術・家庭	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組む生徒が多い。しかし授業評価アンケートからは、もっと自分で活動したり製作したりする時間が欲しいなどが挙がっており、生徒主体で活動する時間や制作する時間を十分に確保できなかったことが課題である。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や実習には意欲的に取り組むが、知識の確認のために教員の話聞く場面では集中力が続かない傾向にある。 ・授業評価アンケートでタブレットPCをより活用してほしいとの声があがった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを活用して、調べ学習や学び合う学習の活動を積極的に取り入れていく。実習時の説明では、パワーポイントを使うことで時間を短縮し、生徒の活動時間を長く確保する。 ・2学期は製作の授業が中心となるため、製作物の作り方をclassroomで配信し、教員が話す場面を削減する。ただし、配信する資料のみでは理解しにくい生徒がいることが想定されるため、実物の見本やプリント資料も用意しておく。

<p>外国語 (英語)</p>	<p>・「聞くこと」「話すこと」に関しては、能力が高く、小学校教育が大きく影響しているように感じる。その根拠として、英語での指示をほとんどの生徒が理解していることや、定期考査におけるリスニング分野の得点率の高さなどがある。授業評価アンケートでは帯学習で行っている「話す活動」に関する前向きなコメントがとても多く、興味関心が高いことがわかる。実際にスピーキングテストを実施しても話せる生徒たちである。</p> <p>・「書くこと」に関しては、中学校に進学してから本格的に始めた生徒がほとんどで、困難を感じやすいと考える。音と文字の接続の部分で、何とか書き起こそうという努力はしているが、なかなか定着していないという課題が見受けられる。</p>	<p>・自己表現をする場である帯学習の「コミュニケーションタイム」や教科書の本文を基にしたスキットの発表などを引き続き行い、「聞くこと」「話すこと」の力を伸ばしていく。また、発達段階に応じて、準備を要する発表だけでなく、即興でやりとりをするなど、応用できるような場面も設定していく。</p> <p>・「書くこと」に関しては、苦手意識をもつ前にスムーズに移行することと、自己表現をしたいという気持ちを高めることが大切と考える。そこで、「コミュニケーションタイム」を話す活動から書く活動に移行していき、話していた内容を書くだけだということを伝えることで、書くことに対するハードルを下げる。また、定期的に単語テストや単元テストを行い、フィードバックをさせる。</p>
---------------------	--	--